

令和6年度 第3回 砂丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年10月24日（木） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 砂丘小学校 会議室
- 3 出席委員 小林 あけみ、岡本 千香、中村 和夫、川嶋 利博、宗重 益子
高島 大輔、鈴木 ふじ子、鈴木 康介、高野 朋子
- 4 欠席委員 西尾 進治
- 5 学 校 長瀬 千晶（校長）、櫻井 利幸（教頭）、越川 真優子（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 越川 真優子
- 8 議長の選出

前回会議で高島委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

- 9 協議事項
 - （1）本校における学校評価項目について
 - （2）通いたくなる魅力あふれる学校を目指して
 - ・オープンスクールを終えて
 - ・防災教育について
 - ・これまでの取組みと子供たちの様子について

10 会議記録

議長から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。※開会時は、8名。途中からの出席者ありで結果9名の出席。

- （1）本校における学校評価項目について

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき、砂丘小学校の学校評価項目（保護者用アンケート）について説明があった。

- （2）通いたくなる魅力あふれる学校を目指して
 - ・オープンスクールを終えて
 - ・防災教育について
 - ・これまでの取組みと子供たちの様子について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、オープンスクール実施後の報告、防災教育について説明があった。また、子どもたちの声として「みんなで学校をつくろうアンケート実施結果（4年生～6年生が対象）を踏まえ、子どもたちの様子について具体的な説明があった。委員から、以下の発言があった。

【オープンスクールを終えて】

- ・幼稚園も遠方から通園していることも多い。もう少し、チラシを配布する園の対象を広げてみてはどうか。実際の子どもたちの声や親の声をチラシ等に掲載して積極的にアピールしていくとよいのではないかと。（鈴木康委員）
- ・ドローン撮影で学校をPRするのはどうか。視覚から訴えることができ、従来の紙媒体等とはまた違った印象を与えられるのではないかと。自身の人脈で撮影は可能である。撮影の工夫

次第では面白いものになると思う。(高島委員)

【防災教育について】

- ・学校にライフジャケットの備えはあるのか。砂丘小は、水害が予測される。海の講座を行う際にもライフジャケットの着用体験を通して命を守ることを教えている。自分の身を守る術の知識を持っているといざというときに気持ちが強く持てると思う。(高島委員)
- ・ライフジャケットという特定したものではなく、浮くランドセル等、代替品でなんとかできるように取り組んでいかないといけない。予算が絡んでくることは、全市的にとなると難しいのではないかと。(鈴木康委員)
- ・津波となるとライフジャケットもないよりはましというもの。卸本町自治会では、来年度から防災に特化して予算組みをする予定がある。自治会から数年をかけて支援していくことも検討できる。(川嶋委員)

これらの意見を受け、校長から、防災の専門家からは、ライフジャケットで津波から命を守れる、命が助かるものではないと聞いているが、本校でもライフジャケットを毎年少しずつ揃えていけるよう予算について検討したいと発言があった。

【これまでの取組みと子供たちの様子について】※ボランティアの項目で多数の意見があった。

- ・ボランティアを保護者から地域の方へシフトしていくことも検討してみてもどうか。(鈴木ふ委員)
- ・コーディネーターを引き受けた際は、自分も現在の環境とは違った。仕事をする保護者が増えてきて状況の変化がみてとれる。(高野委員)
- ・以前は、自分も家庭科ボランティアに入っていた。児童数が減少に転じていたり、保護者が手伝える状況に変化が生じてきたと感じている。(小林委員)
- ・PTAとCSが統合してもいいかという部分は、各々の意見があると思われる。(宗重委員)
- ・地域でのお手伝い会員を集め、いざというときに学校を支援してもらおう。学校になじめるよう行事等に参加を促し、まずは学校を知ってもらおう。ボランティア登録制度を作っていくのもどうか。(鈴木康委員)

これらの意見を受け、校長から、持続可能な活動をするには、地域の方が入っているほうがうまくいきそうで、保護者以外にボランティアをお願いできる方に、さくら連絡網等で呼びかけることができればいいと考えると発言があった。

- ・どんな学校になるといいかというアンケート結果の中で、みんな仲がいい学校という意見があったことについて。子どもたちの登下校中に出くわすことがある。視線を合わさない子どもが気になる。新しい挨拶の形として「ハイタッチ」を取り入れてみてはどうか。ハイタッチをすることでその人との距離感も近まる等、いい形の挨拶運動になっていくのではないかと。砂丘小の規模ならではの取組みとも言えるのではないかと。(高島委員)
- ・挨拶の形を考えることはよい案であるが、国籍等、様々な問題もあることから、ハイタッチがいいかどうかは検証する必要がある。(鈴木康委員)

その他報告事項等

学校支援コーディネーターから花壇活動、今後のお楽しみ講座についての報告があった。

議長から、次回議長を鈴木康委員にお願いする旨の発言があった。

教頭から、次回会議は、令和7年2月17日（月）午後2時からコミュニティルームで開催する旨の報告があった。